



## 背景／問題意識 福井のこれからを考えて

### 1. まちで子育て

共働き率全国1位

福井県は3世代同居が多く、共働き率が高い。協力して子育てをしていく社会である。

福井県 山形県 全国

平均22年連続

まちなか居住

今後、2世代や片親の家庭にもサポートが必要である。それがまちなかにあれば、子どもの近くで安心して働き、まちなか居住につながる。

### 2. 高齢者の活力とセーフティネット

高齢者の増加

高齢者人口の割合は増加する一方で、元氣な高齢者の活力を生かす社会を支えていく必要がある。

福井市の人口構成

0 20 40 60 80 100(%)

加えて、身寄りがいない人や裕福でない人も、在宅介護では暮らせなくなった時に、まちや人と関わって生きていく必要がある。

### 3. 強い中小企業

福井を支える製造業

眼鏡、繊維等軽工業が発達し、技術を持つ中小企業が多い。

企業交流、産学連携

それぞれの技術を組み合わせ、新しい製品、ビジネスを生み出していく必要があり、県や市としても地元産業を応援していくべきである。

### 4. 歩行空間の創出

車社会

震災、震災の復興で道路は広く整備され都市の構造は自動車の交通に適した形となった。

歩きやすいまちへ

EVなど小型交通の発達をふまえて、歩きやすく、人とまちがすれ違うしやすいまちにすることがまちの賑わいにつながる。

### 提案 「あつたまり」による解決

1. まちで子育て

2. 高齢者の活力とセーフティネット

3. 強い中小企業

4. 歩行空間

あつたまり

## 「あつたまり」で人の関係性を育む 「あつたまり」とはまちで人がたまる場所、出会う場所

「あつたまり」=「あたたかい」+「たまり」

子育てや高齢者介護を支援する場  
福井の企業を応援する場  
歩行者のための場

これらの機能だけでなく、  
その中で人が出会うことができるもの  
時間をかけて人の関係性を育むもの  
それが「あつたまり」

### あつたまりの種類

- 子どもや高齢者を見守るあつたまり
  - 福祉都市の顔・城址公園整備
  - 共同中庭のある住宅地づくり
- 福井の企業を応援するあつたまり
  - 企業同士の交流拠点
- シェルターのネットワークとしてのあつたまり
  - 電車やバスの待合室
  - 小さなほっとスポット

### あつたまりが成長する

あつたまりを利用する人の関係性が変わると、空間との関わり方も変わる

#### あつたまりの種

あつたまりが種のとき、そこは誰かとすれ違ったり、見かけたりする場。種となる空間を作ったり、管理したりする主体が必要。

#### あつたまりの芽

あつたまりの芽が出ると、そこで人間関係が生まれる。挨拶や短い会話を。空間を使うルールを人々が持つようになる。

#### あつたまりの花

あつたまりの花が咲くと、そこで人々が交流し、コミュニティの拠点になる。人々がイベントを企画したり、使い方を考えるようになる。

#### あつたまりの実

あつたまりが実を結ぶのは、その場所が人々にとって大事な場所になったとき。人々はすんで整備をするようになり、その活動はまた新しいあつたまりの種を生む。

### あつたまりの成長プログラム

2014	2018 福井国体	2025 北陸新幹線敦賀開業	2050 あつたまりネット完成
<b>子ども・高齢者を見守る</b> 城址公園 共同中庭のある住宅地	福井市が保育園と介護施設を同時に城址に整備し、他世代の交流の場づくりを目指す 福井市が共同中庭に面する低未利用地にバリアフリー住宅を誘致する	あつたまり部会主催の、保育園と介護施設の合同イベントが開催される 城址内の食堂ではアクティブシニアを積極的に雇用する	アクティブシニアの有志団体が城址公園の清掃・イベント管理を担う 住民が自主的に緑帯や玄関口を整備するようになる 町内会で、高齢者の住む住宅の周りの雪かきを手伝うようになる
<b>企業支援</b> 企業交流拠点	商工会が企業間の情報交換・交流を促すイベントを開催する 地元企業が企業間の情報交換を定期的開催する	地元企業主導で就職支援・企業紹介のイベントが開催され、市民に地元企業のPRが行われる	市民・学生 地元企業の社会人
<b>歩行者空間</b> シェルター ほっとスポット	公共交通推進プロジェクトとして鉄道会社・バス会社が主導 路面電車の福井駅前駅と市役所前駅の待合室を人がたまるように福井鉄道が整備する まちが活性化のために福井市とまちづくり福井が主導 城址玄関の交差点や駅前商店街などにぎわい拠点をほっとスポットを整備する	路面電車の他の駅やコミュニティバスのバス停にも待合室の整備を行う あつたまり部会が自営業店舗やコンビニと共同して城址や駅、商店街をつなぐようにほっとスポットを配置する	待合室の一部はほっとスポットに変化 あつたまり部会と市が共同でほっとスポット間の歩行者道路を整備し、人に優しいまちをつくる あつたまり部会とフクイ夢アート実行委員が共同であつたまり全体を使ってフクイ夢アートを行う

### あつたまり全体のマネジメント (あつたまり部会)

あつたまり全体の企画・運営は、まちづくり福井株式会社が行う。県都デザイン構想と合わせてあつたまりの整備計画を立てる。まちづくり株式会社下部組織としてあつたまり部会を新設し、あつたまりのデザインマネジメントや維持管理、業務委託などを行う。あつたまり部会は、まちづくり福井の出資会社である福井市や商工会議所、商店街の組合などと共同で整備、維持管理を行う。あつたまりが成長するにつれて、維持管理に住民の手が入ってくる。

まちづくり福井(株) → あつたまり部会 → あつたまりのデザインやあつたまり全体のイベントなどのマネジメント

福井市: 保育園・介護施設等福祉施設運営、住宅地の区画整理によって中庭空間を創出

福井市商街連合会・振興組合: 城址公園、待合室内の飲食店の業務委託

民間企業: 交流スペースの提供、中小企業支援、福井商工会議所、企業同士の交流スペースを整備し、情報交換・共同開発を推進する

鉄道会社・バス会社: 駅やバス停の待合室の整備

市民: あつたまりが成長すると維持管理に協力する

### クリーンエネルギー

あつたまりの電力は太陽光発電と充電機器用電源の一部を使用し、空調も扇風機やベレットストーブ等を使用することで消費電力を抑える。さらに、EVポートを備え付け、クリーンな交通の普及を進める。

太陽光パネル、暖房器具、蓄電池を備えた充電機、EVポート

### 災害時の活用

非常用電源

地震などの災害時には、各あつたまりは非常用電源装置となる。停電時にも各あつたまりが点灯し、安全地帯の目印や、避難場所への誘導になる。

広域的な利便性とリスク回避の考えから、充電機は分散させる

中心市街地居住者は、徒歩約100mでいずれかに到達できる

直径200m

災害情報拠点

あつたまり内に災害用伝言版を備え付け、災害情報の周知、安否情報の登録や確認を行う。備え付けの電源機能を開放し、家族との連絡や災害情報の確認に必要な携帯電話の充電ができる

### 木材を使った手作りほっとスポット

ほっとスポットの数が増えてくると、自営業の店舗の前に手作りのほっとスポットが作られる。手作りのほっとスポットには福井県産の木材を使ったり、暖炉が置かれたりする。

### 木材のカスケード利用

建材や暖炉の薪には廃材などを解体して再利用するカスケード利用を行う。サイクル全体での温室効果ガス排出量を抑えるとともに、県内林業の育成・活性化を図る。

2014年

2050年

最初は種から始めたものが、まち全体に広がることで、人々の多様な関係性をつくり、福井のまち全体があつたまりになる。

カスケード利用の概念図